おしらせ

全て多摩市にある島田療育センターのお知らせです

詳しくはホームページをご覧ください。お問合せは、
支援部（042-374-2101）までお願いします。
※受付時間：平日9：30-12：00／13：00-17：00

第6回　ティーチャートレーニング開催のお知らせ

日時：2019年8月5日（月）～6日（火）
10：00～17：00
会場：島田療育センター厚生棟
申込締切：7月12日（金）必着
内容：発達障害など特別なニーズのある子どもに関わる先生方を対象とした連続講座を開催します。講座では、応用行動分析の視点から子どもの行動を理解し、特性に合った対応を学びます。また、事例検討を通して理解を深めていきます。詳細はホームページをご参照ください。

第1回　作業療法(OT)科講習会開催のお知ら

日時：2019年8月31日（土）
10：00～11：15　（受付：9：45～）
会場：パルテノン多摩　4階　第2.・3会議室
申込締切：定員になり次第
対象：就学前後のお子さんをお持ちの保護者
内容：姿勢の話では、姿勢が崩れやすい原因と、姿勢を育てるためにできることをお話します。日々の関わりで、できることを紹介します。

お申込方法は、今後ホームページ等でお知らせします。

第15回　島田セミナー「発達障害とてんかんの相互的アプローチ」

参加者部集中
問合せは
042-374-2071
稲田・大瀧まで

日時：2019年7月13日（土）
14：30～（14：00開場予定）
会場：島田療育センター厚生棟
対象：療育・医療・リハビリ関係従事者、支援者等
参加費：医師・歯科医師1000円、その他500円
学生無料（要学生証提示）
定員：100名（先着順・申込はホームページ／FAX）
内容：①発達障害の脳波検査のコツ(仮)②発達障害の薬物療法～4つのADHD治療薬を使いこなす～
③てんかんと発達障害

Facebook、ブログのご紹介

当センターでは公式ブログやFacebookを通して、日々の活動やイベントの情報を発信しています。
ブログは昨年6月からデザインを一新し、以前よりも見やすくなりました。まだご覧になったことのない方は、ぜひ一度ご覧ください。ブログの更新情報はFacebookでもお知らせしています。また、イベントやグループの情報についてはメールマガジンでもご案内していますので、こちらもぜひご利用ください。

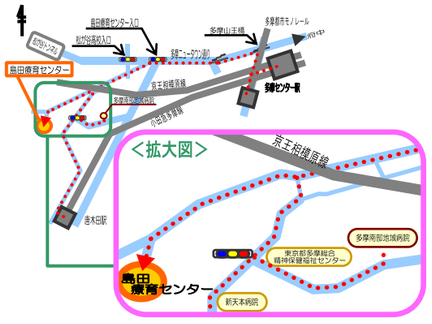
お子様の発達にお困りやご心配はありませんか？
発達支援センター「セブンクローバー」のご紹介

セブンクローバーでは、セブクロオリジナルサービスとして、コミュニケーションや言葉等にご心配のある方からのご相談に応じています。
公認心理師・OT・ST等が、助言や指導をしています。
専門職と個別相談や小集団のソーシャルスキルトレーニングなど、様々なサービスを実施しています。

島田療育センターイベント情報

メルマガ会員募集中！

①空メールを送信
QRコードを読み取り、空メールを送信してください。
②確認メールに返信
リクエスト確認メールが届きますので、そのまま返信してください。（Googleグループの機能を利用しているため、Googleからのメールが届きます。）
③登録完了！
参加完了のメールが届き、登録完了となります。



〈徒歩〉
多摩センター駅下車
→約20分

〈バス〉
多摩センター駅
バスターミナル12番乗り場
「南部地域病院」行き
→約7分
終点「南部地域病院」
下車→徒歩5分

編集後記

先日、当センターから医師などを派遣させていただいている施設さんで、とても美味しい茹じゃがいもをいただきました。施設の方が大切に栽培し、弱火でコトコト茹でたとのこと。甘みとホクホク感、茹で加減、塩加減もさすがで、つい作り方を聞いてしまいました。その施設代表さんは、パワフルで愛情深い方です。その人柄がお料理にも出ているなと感じ、私も見習いたいなと思いました。（高野）

編　集　：　社会福祉法人　日本心身障害児協会
島田療育センター　支援部
住　所　：　〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1
電　話　：　042-374-2071（代表）
E-mail　：　Info-room@shimada-ryoiku.or.jp

NEW ネットワークしまだ
Network Shimada
発行者　島田療育センター
院長　木実谷 哲史

平成30年度　地域療育等支援事業　実施報告

自宅等で暮らす障害をお持ちの方やその家族が、生活支援として“身近な地域で療育指導、相談等を受けられるよう”東京都が当センターに委託して実施している事業です。平成30年度の実施状況を報告します。

【外来療育等指導事業（療育相談）**】**

【訪問療育等指導事業（訪問相談）**】**

障害を持つ方、または発達上のご心配のあるご本人、あるいはご家族に対し、専門職が当センター（外来療育等指導事業）あるいはご家庭等（訪問療育等指導事業）にてご相談に応じています。

療育相談は、セブンクローバーや外来診療での対応により、相談件数はわずかとなっています。

訪問相談では、疾病や身体（障害）の状況により外出が困難な方や自宅での指導が必要な方に対し、専門職が家庭を訪問し、生活の中での対応方法や工夫を助言させていただいたり、ご不安・ご心配に対するご相談に応じたりしています。その他、外部公共機関での講習会という形式で、OTによる“姿勢や体幹の育ち”や“お箸（手先）の使い方”に関する講義・体験学習の会を各1回、STによる“ことばの育ち”や“食べること（摂食）”に関する講義・体験学習の会を各1回、心理によるペアレントトレーニング・ミニ講座を年2回に実施しました。今年度の開催につきましては、ホームページ等で順次情報をお知らせいたします。

それ以外に、小児在宅医療や在宅支援の充実にむけた家庭での個別指導・相談も年間20件弱あり、在宅支援の重要性とニーズを強く感じております。年齢別では、講習会の内容（対象となるお子さんの年齢）の影響もあり、就学前～小学校低学年のお子さんのご相談が多くなっています。（表①）、主な居住地は多摩市、次いで八王子市、町田市の順に多く（表②）、総実施件数は昨対比8件減となりました。

【施設支援一般指導事業（施設支援）**】**

自宅等で暮らす障害のある方、または発達上のご心配のある方に対応されている地域の通所施設の職員様のご相談に応じる事業です。現場での対応の工夫、配慮などを助言させていただいています。スタッフが施設へ出向く訪問相談と、施設の方に当センターへお越しいただく来所相談の方法があります。

昨年度は96か所（昨対比13か所増）の施設に対し、延べ140件（昨対比22件増）のご相談に対応させていただきました。例年、年度当初～1学期中のお申込みは少なめで、生活が落ち着き、状況が見えてくる2学期以降にご相談を検討される施設が増えてくる傾向があります。施設種別では6割が保育園・幼稚園から、3割弱が小学校等のご相談でした（表④）。今年度も当事業の意義を尊重し、理解を示してくださいました東京都のご協力により、年度予算を大幅に増額いただき、多くのご依頼に対応させていただくことができました（図①）。

職種別では心理職とSTの対応が多く、発達全般やコミュニケーション、集団生活での対応の工夫、ことばや口腔機能の発達、運動機能や姿勢・体幹に関するご相談等に応じました（表⑤）。

同施設からのご利用は概ね年3回程度に留め、多くの施設に広くご利用いただけますようご協力をお願いしています。とはいえ、事情がおありになる場合にはご相談に応じられる場合もありますので、お気軽にご連絡ください。また助言・指導させていただいた内容は、各施設にて職員様間で（時にはご本人・保護者の方々と）共有していただき、さらには他の児童・生徒、利用者様へ活用・応用したり、クラス運営として集団全体に導入したりする等、“その後につなげていく支援”を心掛けていただくこともお願いしています。

今後ともスタッフ一同尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。　（社会福祉士　市川香織）

（表①）療育相談・訪問の対象児（者）年齢（件）

0-2歳	16
3歳　年少児	16
4歳　年中児	10
5歳　年長児	15
6-8歳　(小・低学年)	16
9-11歳　(小・高学年)	1
12-14歳　中学生	2
15-17歳　高校生	3
18歳以上	4
合計	88

（表②）療育相談・訪問相談の相談者居住地域（件）

多摩	八王子	町田	稲城	日野	その他	合計
29	21	15	8	4	6	80

（表③）療育相談・訪問相談の対応職種延べ数（人）

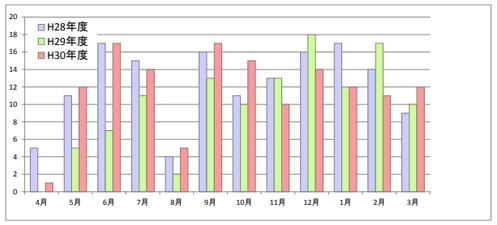
医師	看護師	PT	OT	ST	心理	保育士	SW
1	5	9	8	3	4	0	7

（表⑤）施設支援一般指導事業の派遣職種延べ数（人）

医師	看護師	PT	OT	ST	心理	SW	その他
7	2	7	17	55	55	142	3

（表④）施設支援一般指導事業の実施数（施設種別・市別毎）実:実施施設数、延:延べ実施数

	多摩市		八王子市		町田市		稲城市		日野市		その他		合計	
	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延
特別支援学校	0	0	1	1	2	3	0	0	0	0	0	0	3	4
保育園	14	33	11	17	4	4	4	5	2	2	2	2	37	63
幼稚園	6	9	4	6	4	4	2	2	0	0	0	0	16	21
小学校	7	9	10	17	4	5	4	4	3	4	0	0	28	39
中学校	2	2	2	2	2	2	0	0	1	1	2	2	9	9
障害児者機関	0	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	2	3
学童・その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
合計	29	53	29	45	17	19	10	11	7	8	4	4	96	140



（図①）施設支援の月毎の実施数の分布（施設）

第18回　島田療育センター公開シンポジウム　パート2

今回のシンポジウムでは、昨年の内容を更に深める機会としたく『パート2』として多摩地域における「ご本人・家族の一番近くで命を支える在宅支援の実際」や「在宅生活を支え、より充実させるための支援」について講師の方々よりご報告いただきました。

宮田　章子 氏
さいわいこどもクリニック院長

基調講演をお願いした宮田先生からは、今日の国内の医療的ケア児の現状と課題、訪問を含む在宅で受けられるサービスの充実が求められる理由についてご説明いただいた上で、クリニックや地域で取り組まれている活動をご紹介いただきました。在宅支援の充実のためには、本人・家族と他職種のチームが繰り返し話し合うこと、チームメンバーは其々の役割を分担して協働すること、その際に役割分担がバラバラにならないよう少しずつ役割が重なっているとスムーズであること、そして生活のネットワークと医療のネットワークがお互いに連携していくことが重要とお話しくださいました。そして当センターの様な療育機関には、医療と福祉の双方の機能を活用して地域と繋がっていって欲しい、との期待のメッセージをいただきました。

小保内　俊雅 氏
多摩北部医療センター小児科部長

話題提供の小保内先生からは、地域の中核病院が「広域を対象とする小児医療センター」と「在宅」の中間施設として果たしている役割として、亜急性期の転院やレスパイト、緊急時の受け入れ等についてご紹介いただき、病院としてのレスパイトの受け入れ体制や実状も詳しくご説明いただきました。また宮田先生からも課題として挙げられたキャリーオーバー対策として、多摩北部医療センターでは『生涯(障害)支援課』を新設し、成人期を迎えても切れ目のない支援を提供しようという取り組みを始めた、という興味深いお話がありました。

和田　慎也 氏
東京都教育庁指導部主任指導主事

同じく話題提供の和田先生からは、主に都立特別支援学校における医療的ケアの内容や支援体制、今年度から開始された医療的ケアが必要な児への専用通学車両の運行についてご報告いただきました。学校も教員向けの医療機器の学習会を開催したり、学校看護師の体制強化等に向けた取り組みを模索したり、と変化する児童の状態像にできる限り対応しよう尽力されている状況をお話しいただきました。

今回は多くの参加希望が寄せられ、テーマへの関心の高さが伺えました。参加者からは、第一線でご尽力されている先生方から在宅支援の実情や課題をわかりやすくお話しいただき、医療的ケア児・重心の現状、取り巻く課題や地域支援の様子がよく理解できた、というご意見を多くいただきました。我々職員、そしてセンターは理念にある「地域に開かれたセンターを目指す」べく尚一層努めて参ります。演者の先生方、ご参加くださったみなさま、ありがとうございました。　（社会福祉士　　市川香織）

『おうちに届け♪スヌーズレンカー』ご紹介

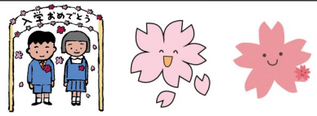
現在当センターでは、「東京福祉保健財団　子供が輝く東京・応援事業」より助成金をいただき、“スヌーズレンカー”を作製しています。この「子供が輝く東京・応援事業」は、社会全体で子育てを支えることを目的として、東京都や企業等の寄附による基金を活用し、NPO法人等が取り組む、結婚、子育て、学び、就労までのライフステージに応じた事業に対し助成金を交付されている事業です。この事業を活用させていただき昨年度より3年計画で『おうちにお届け♪スヌーズレンカー』と題して、スヌーズレンの装置や環境を搭載した車を作製し、重度の障害や疾病等のため移動や外出が困難で、家以外の経験を積むことが限られている重度の障がいや病気、医療的ケアを伴う子ども達の家庭等を訪問しようと準備を進めています。

近年、医療機器や様々な医療的なケアを伴いながら地域(家庭)で生活される重度の障害や病気をお持ちの方々が急増しています。当センターでも平成27(2015)年より「ライフケア　島田　あおぞら」の拡充を進めてきたのはその流れの一つです。しかし生命の補償だけではなく、安全を保ちつつより豊かな教育や保育を提供し、成長発達を促していく療育的な支援が子ども達にはとても大切です。

スヌーズレンは、感覚を刺激し普段とは違う経験を味わうことができる空間を提供するものですが、機材や環境整備が必要でご自宅で行うのはハードルの高いものでした。しかしスヌーズレンカーは、車内に設置したスヌーズレンの機材や環境をご家庭やお家のすぐそばまでお届けできますので、移動や外出が困難で、家以外の経験を積むことが限られている子ども達とそのご家族へ、さらにはご本人をサポートしてくださっている支援者の方々と一緒に、スヌーズレンを楽しんでいただくことができるようになります。そしてご本人が自分のペースで楽しむことや自分で選択すること、他者との時間を共有すること等、貴重な経験と時間を過ごしより豊かな感性の成長とリラクゼーションをもたらすツールとして使っていただけますよう、この助成金を大切に使わせていただきます。また車輌完成の際には、皆様にご報告させていただきます。　（社会福祉士　　市川香織）

新　第28号（2019年6月28日 発行）

「わくわく入学準備BOOK『かがやけ！たまっ子一年生』」のご紹介



表題の冊子は平成30年度多摩市から発行された小学校入学に向けたガイドブックです。島田療育センター支援部次長山本先生の監修の下、多摩市教育委員会、多摩市子ども青少年部が共同で制作しました。

この冊子は、平成25年に東京都が発表した「小1プロブレム課題」から幼稚園・保育園・小学校の担任間による連携を高めるための保幼小連携事業の一環として生まれ、その中心にいたのが残念ながら昨年急逝された山本先生でした。「小1プロブレム」とは、幼稚園・保育園等の生活様式から小学校の生活様式に変わったことにうまく順応できない子どもたちによる学級経営破綻の総称で、発表当時の調査報告として都内の10％の小1クラスがその状況に陥っているというセンセーショナルな結果が出ました。そうした状況を打破するためにも幼保小の連携が声高となり、最近の学習指導要領、保育所保育指針等でも重要事項として位置づけられています。

そういった課題に早くから多摩市では取り組もうという機運が上がり、教育委員会、子ども青少年部が連携し、幼保小の連携準備委員会が平成28年度に起ち上げられたのです。

その事業のアドバイザーとして精力的に連携事業に関わっていただいたのが山本先生で、手始めにそれぞれの現場で考える就学を迎えることに対する意識の違いについて話し合い、共有化を図りました。そして山本先生に「現実を何か作り出そう。そうすることで、連携の形がより見えやすくなるはず。」と音頭を取っていただき、1年半の時間をかけて作り上げてきたのが**「かがやけ！たまっ子1年生」**という入学準備ブックなのです。

まず、保護者の意識と学校側の意識の違いをしっかりあぶりだそう、とアンケート作りから始めました。同じ項目での設問を作ることで、それぞれが大切にしているポイントの違いが明確になるだろうと想定しながらの作業でした。それと同時進行で、特に学校生活において必要な日常スキルはどんなものなのか？についてグループワークを重ねていきました。就学に向けて大切なポイント、学校生活上の課題という2点に絞り内容を深めていきました。

アンケート結果は、想定に近い結果でした。子育てという大枠の視点である保護者と学校生活という具体的なポイントでとらえる学校教員は、特に字の習得に関わる意識の違いは鮮明で、保護者のほうが早期に覚えさせる意識が高かったのが印象的でした。この結果を元にポイントを再整理し、保護者の自由記述からみられる不安のポイントを加味しながらレイアウト、校正をかけ本ガイドブックができ上がったのです。レイアウトは、支援部に所属する神田さんが大いに助けてくれました。山本先生を始め、島田療育センターの協力がなければ、この冊子を世に出すこともなく、具体的な成果物をもとに連携をより深める手立てもなかったかもしれません。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

（多摩市保育協議会　元井由隆氏）

Q

いつも姿勢が崩れやすい…食事中も膝を立てて座っていたり、肘を付いていたり…普段もゴロゴロねそべって遊んでいることも多い…
姿勢がよくなるためには、どうしたらいいの？

A

姿勢が崩れやすいお子さんは、姿勢を保つために大切な“体幹”の力が弱いことが多いです。この体幹というものは、身体の腹筋や背筋を含めた中心部分で、姿勢を保ったり、身体のバランスを取ったりする上ではとても重要になるのです。姿勢の改善には、体幹を育てることが必要になります。では、体幹を育てるためにはどのようなことをしたら良いのか…実は日常の生活・遊びの中には育ちを促せることがたくさんあるのです。

例えば、抱っこでのしがみつきや、手押し車、お相撲ごっこであったり、公園の遊具ではアスレチック、ターザンロープ、鉄棒、ブランコ、などなど…体幹を育てる要素が含まれています。また、お手伝いではお布団運びや雑巾がけ、お盆運びなどもお勧めです。あとは、ちょっとしたお出かけの際に、歩いてお出かけをしたり、エレベーターなどを使わず階段を上り下りする、なども効果的です。こういった遊びや活動を日々の中で少しずつつでも構わないので、継続的に取り組めることが大切です。親子で楽しみながら、お母さんお父さん、お子さんにとって無理なく取り組んでいけることを見つけてみてください。今日やったから明日からすぐよくなる、というわけにはいきませんが、少しづつの積み重ねこそが、姿勢を育てるためには大切です。また、遊び方のコツについては、今年度開催予定のOT講習会でより詳しくお話しする予定ですので、ご興味ある方はこちらもご参加いただければと思います。

（作業療法士　福島良太）